
アドゥヴァイス星人

三代渡吉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アドウヴァイス星人

【Nコード】

N8868E

【作者名】

三代渡吉

【あらすじ】

異星人が日本にやってきた！奴等は、本当にやりたい放題やりやがるんだ！

少し遠い未来……地球に異星人が降り立ってきた。

日本は彼等の根城にされ、すると異星人日本各地を闊歩し始めた。いまや日本という国は、アドウヴァイス星人という顔が真つ赤な宇宙人に支配されていた。

一表向きには共存しているが、実際はそんな生易しい関係性ではない。

ちよつとでも外を歩いていると、彼等は必ず日本人に突つかかってくる、何かしら騒ぎを起こす。

警察だって、毎日のようにあちこちで揉め事が起きるので、それはもうお手上げになっている。

例えば、あるところで青年が財布を手から落としてしまった。すると、丁度近くを歩いていたアドウヴァイス星人がそれを拾った。

ありがとうと彼は財布を返してもらおうと手を出したが、アドウヴァイス星人は何も言わず立ち去ろうとした。

流石に自分の財布を盗まれて「あー、盗られちゃった」なんて見送るお人好しいはない。

「財布を返せよ！」

「なぜそんなにクツがまかりトオルのだ」

発音が所々間違った日本語で、相手は言葉を返す。

「その財布は俺のものだ！」

「しかし、そもそもこのチキューに、“サイフ”というものをツタエたのはワレワレだ」

「ハア？」

「だとすれば、キミたちはワタシたちのギジュツのおかげで、サイ

フというものをツカウことがデキテいる。チガウかね？」

「……本当に？ 根拠はあるのかよ」

「ウタガウのかね！」

あまりにも強くアドウヴァイス星人が言うなら、結局彼は何も言えず、財布を渡すことになってしまった。

「あ、TURUYAの会員カードとか、それくらいは返して！」
するとアドウヴァイス星人が、また振り返って答えた。

「カードというブンメイのリキをツクったのは、ワレワレだ」

例えば、ある土地にとっても貧乏だけどいつも笑顔な一家がいた。
立地自体は結構良かったので、贅沢は出来なくても生活に不自由することはなかった。

そんな土地に目をつけたアドウヴァイス星人は、家族に対して立ち退きを要求した。

家族はもちろん総出でその要求を退けようとした。

昔から住んでいる家だったし、立地自体は良いのだから、好んで引っ越したいとも思わなかったのだ。

だが、そんな彼等の思い入れなど関係なしに、アドウヴァイス星人は訴えた。

「このトチはムカシ、トオイムカシにワレワレがチキューにやってきたトキ、ワレワレイツカのトチだった。だから、ワタシタチのトチだ」

一家は、それを認めなかったが、彼等はさらに自分達の権利を主張した。

「オマエタチは、ヒトサマのトチをウバツて、ハズかしくないの力ネ」

「ここは俺達の土地だ、出て行け」

「いくらケンリをシュチョウしようが、ムカシここにスんでイタのはワレワレだ」

「証拠は？」

「ウルサイ！ カトウセイブツがクチゴタえするな！」

アドヴァイス星人は、そんな一家の反抗的な態度に腹が立って、懷から銃を取り出した。

一家はあとずさるが、銃の持ち主は、それを家族ではなく、空を飛んでいたハトに向けて放った。

銃撃を受けたハトは、小さい呻き声をあげたかと思うと、この地上から跡形もなく消滅した。

「これは、サイボウゼンハカイコウセンジュウだ。セイブツがこれをウケれば、サイボウのチリヒトツノコらなくなる。こんなサイセンタンのギジュツをもつワレワレのイウことがシンヨウすることがデキナイと？」

結局、一家は何も言うことが出来ず、土地を明け渡すことになってしまった。

そんな好き勝手やっているアドヴァイス星人に対して、日本政府は何も言えなかった。

現在の首相であるクフーダ「スオヤも、彼等にはわりと好き放題やられていた。

彼等がやってきた時、粗茶を出したところ、それは自分達の星で生み出した作法であるとして、作法の使用料をまず取られた。

さらに、日本人がずっとその作法を使っていたという賠償を彼等は請求し始めた。

話し合いの結果、日本国民全員の責任を負うことになったクフーダ首相は、自宅などを始め、全ての財産を差し押さえられてしまった。

だが、彼は国民の前で「ダイジョーブです。アドヴァイス星人ワルイヒトじゃナイ。ノープロブレム、オーライツ」と、あくまで強気だった。

翌日、クフーダは国を捨てて逃げ出した。

考えて見れば、所詮日本は彼の故郷じゃない。だから、途中で逃

げだしたところで罪悪感などなかったのである。

曲りなりともまとめる人間がいなくなった今、日本人は成す術なく、結局は政権までアドヴァイス星人に奪われてしまった。

その年より、日本はアドヴァイス星人の統治する国となった。

国会の全てを異星人に侵略された国として、日本は有名になった。いや、厳密にはもう日本という国は存在しない。

賠償金を搾り取れるだけ搾り取られ、国が一字破産してしまった瞬間、日本という国は地図から消えた。

昔日本列島と呼ばれたここは、アドヴァイス星地球支部として未だに存在はしていた。

日本が崩壊してから数年後、純血の日本人はとうとう一人もいなくなつた。

「フザケるな！ ヨーシ、スコシでもニホンジンのチをヒイテるヤツをツレテコイ！ ドレイにしてヤルンダー！」

今や、日本人の血は絶えようとしていた。

（後書き）

アドバイス、すなわち勧告、忠告。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8868e/>

アドゥヴァイス星人

2010年10月8日15時21分発行